

■社会貢献・連携事業

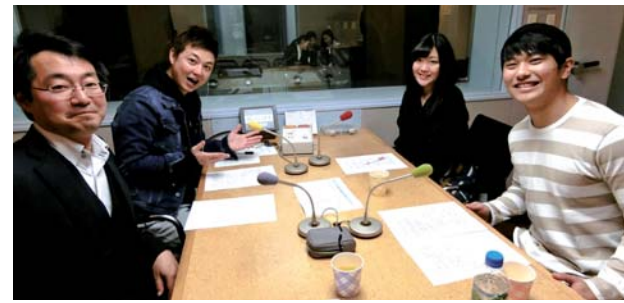
◎社会安全学部がラジオ放送をスタート

## ラジオ番組で防災・減災のノウハウを社会へ発信！



関西大学社会安全学部は、社会の防災力向上を目指し、ラジオ放送「あんぜん・あんしん・アンサンブル」を企画。28の研究室が総力をあげ、4月より毎週、ラジオ大阪「たつをの1dayグッデイ」の番組内、約10分のコーナーにおいて、防災・減災に関するノウハウを発信している。放送は2019年3月までの1年間、全52回を予定。法学、経済学、心理学、工学、情報学と、多彩なフィールドを学問領域とする社会安全学部が、それぞれの分野の視点から、ゼミ単位でアイデアやヒントを紹介している。

当企画は、災害情報学を専門とする近藤誠司准教授のゼミが、3年前からラジオ大阪の「ちょこっと防災」というコーナーを担当してきたことがきっかけで実現。近藤准教授は「最近ではスマホアプリでラジオを聴く若者が増え、ラジオは再び注目されている。災害時だけ頼るのではなく、平素から身近でなじめるメディアに



なるよう、学生と知恵を絞りたい」と語る。まもなく10周年を迎える社会安全学部。これまでに蓄積してきた研究成果を、年間を通し大学の学部単位で、学生が防災ノウハウのプレゼンターとしてラジオ番組に出演し発信するという試みは、全国的にも例をみない企画として期待されている。

**ON AIR** 【放送枠】…ラジオ大阪「たつをの1dayグッデイ」(毎週土曜日 AM10:00~10:30) 番組内コーナー「あんぜん・あんしん・アンサンブル」  
【パーソナリティ】…たつをを氏(タレント/ミュージシャン/防災士/看護師) [参加ゼミ]…関西大学社会安全学部のゼミ

◎国際シンポジウム「山本竟山の書と学問」を開催

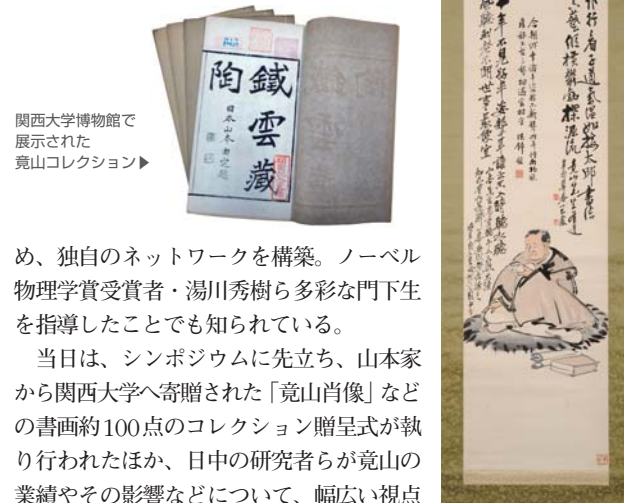
## 竟山と関西圏の文人との交流を巡る



▲シンポジウムで挨拶をする芝井敬司学長

4月28日、梅田キャンパス「KANDAI Me RISE」にて、国際シンポジウム「山本竟山の書と学問～湖南・雨山・鉄斎・南岳との文人交流ネットワーク～」が開催され、研究者や書家ら約200人が参加した。

山本竟山は、明治から昭和初期にかけて関西で活躍した書家で、明治中期から度々中国へ渡り、著名な書家や画家と交流を重ねた。国内では京都を中心に活動する傍ら、東洋史学者・内藤湖南、書家・長尾雨山、文人画家・富岡鉄斎に加え、関西大学のルーツである大阪の漢学塾「泊園書院」の2代院主・藤澤南岳とも親交を深



関西大学博物館で展示された 竟山コレクション▶

め、独自のネットワークを構築。ノーベル物理学賞受賞者・湯川秀樹ら多彩な門下生を指導したことで知られている。

当日は、シンポジウムに先立ち、山本家から関西大学へ寄贈された「竟山肖像」などの書画約100点のコレクション贈呈式が執り行われたほか、日中の研究者らが竟山の業績やその影響などについて、幅広い視点から意見を交わした。

また、これに合わせて関西大学博物館では、5月20日まで2018年度春季企画展を開催し、竟山ならびに、湖南・雨山・鉄斎・南岳の足跡を紹介。今回、山本家から寄贈された竟山コレクションをはじめ、湯川秀樹の書など、竟山にまつわる貴重な品々を展示した。

▲王震・吳昌碩合作「山本竟山肖像」

◎カイザーズクラブ特別講演企画

## 植松努氏講演会「思うは招く」&モデルロケット教室を開催



▲ロケット発射の様子(無人航空機(UAV)で撮影)



講演を行う植松努氏

5月26日、カイザーズクラブ特別講演企画として、植松努氏講演会「思うは招く」&モデルロケット教室が、千里山キャンパスにて開催された。

植松氏は、北海道の産業機器メーカーの社長として独自にロケット開発に挑戦し、小型人工衛星開発やアメリカ民間宇宙開発企業との共同事業等にまい進している。講演会では、「どうせ無理」は人間の自信と可能性を奪う恐ろしい言葉であり、夢は「だったらこうしてみたら?」という考えでかなうのだと、可能性を広げることの大切さについて熱く語った。



▲ペーパークラフトロケットを製作する小学生達

無人航空機(UAV)を用いて、ロケット発射の様子を上空から撮影。

当日は、一般申し込みの親子500人と関大生250人が参加。固唾を飲んでロケットの発射を見守り、大盛況のうちに終了した。

◎〈関西大学簡文館 大阪府指定有形文化財指定記念〉2018年度 関西大学博物館ミュージアム講座

## 大阪の近現代建築とその楽しみ方を知る



千里山キャンパスは、1950年頃から30年に渡り、村野藤吾が約40棟の建物を設計し、現在のキャンパスの骨格を形成してきた。なかでも、1955年に村野が円形部分を増築した「簡文館」は、2007年に国の登録有形文化財として登録され、大阪府内に現存する村野の代表作として知られる。

このたび、簡文館が大阪府の指定有形文化財にも指定され、それを記念する全3回の講座「2018年度 関西大学博物館ミュージアム講座～大阪の近現代建築とその楽しみ方～」が開催された。これは、赤レンガ建築からレトロモダンな戦後建築まで、大阪にある個性豊かな建築の価値や保存活用の取り組み、建物や街の楽しみ方について専門家が講義するという内容。講座後には建築ガイドツアーも実施された。



▲第4学舎2号館。建物と地面との空間に重量感を軽く見せる工夫がされている  
◀ 関西大学会館のバルコニーで解説する橋寺知子准教授

第1回目の4月28日は「関西大学の村野建築」をテーマに、千里山キャンパスにて開講。ツアーでは、第4学舎(理工系学舎)など、大地と建築が調和した村野の配置計画等を実際に見て歩いた。続く、第2回目の5月12日のテーマは「大阪府内の近代建築と文化財」。ツアーでは、普段公開されていない関西大学会館に赴き、村野建築ならではの曲線を描くらせん階段と屋上から見た千里丘陵の眺望を堪能した。そして、第3回目の5月19日は「近現代建築の楽しみ方ーイケフェス大阪ー」をテーマに梅田キャンパスにて開講。延べ312人の参加者は、専門家の話に熱心に耳を傾け、ツアーを楽しんだ。

関西大学会館のらせん階段▶